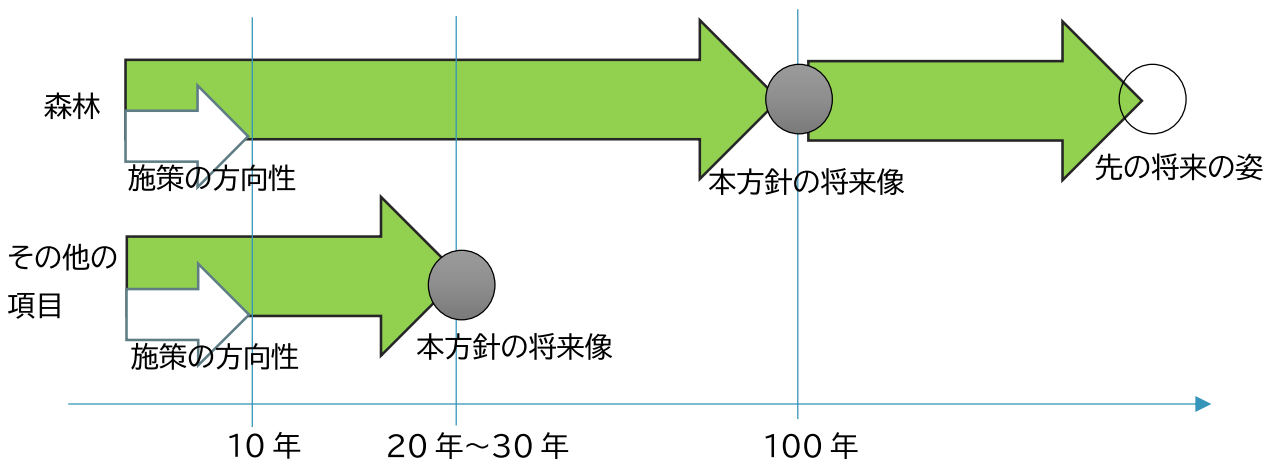


第3章 将来像

この章では、札幌市の目指すべき姿を5つの「将来像」として掲げます。

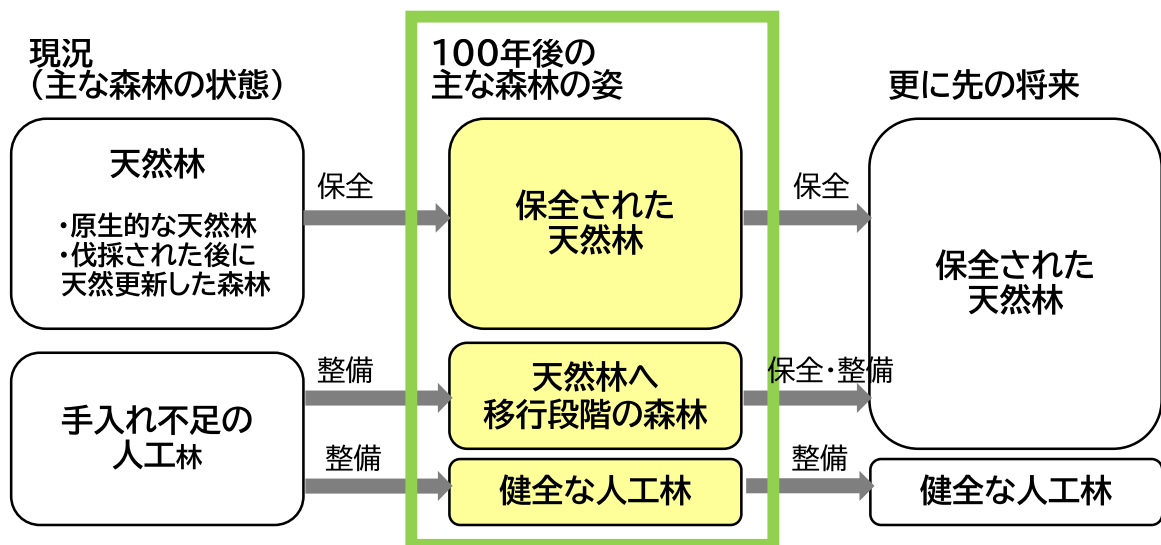
将来像の実現にはいずれも時間を要します。特に森林の将来像は、樹木の成長が緩やかであることから実現までに非常に長い時間を要します。現状の手入れ不足で樹齢が偏った状態の人工林が健全な人工林に十分変化するまでに、植えてから伐るまで(約50年)を2サイクル程度要すると推測し、森林の将来像は100年後に設定しました。その他の項目の将来像は、1サイクルの半分程度の時間までに達成するものとし、20~30年後に設定しました。

この将来像を実現するための「施策の方向性」は第4章で示します。施策の方向性の期間は、本方針の取組期間(おおむね10年)を想定します。



1 森林の将来像

これまで保全してきた森林を継承しつつ、森林の持つ多面的機能を一層発揮させることで、良好な自然環境を有する都市を実現することを目的とした、今後100年を見据えた森林の将来像を次のとおりとします。

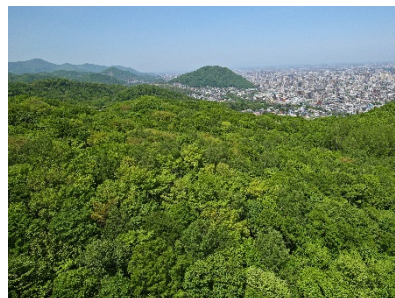


※この他、里山林整備を継続する森林等、多様なあり方も想定

○保全された天然林

天然更新によって成立した森林で、札幌市の都市景観の骨格となる自然環境を保全し、山地災害防止機能、生物多様性保全機能などの公益的機能が十分に発揮された森林。

- ・本方針では、一部で天然更新を促す補助的な作業(間伐、地掻き⁴⁴など)を行った経歴のある森林でも、将来的に手をかけずに育っていく森林は天然林の扱いとします。

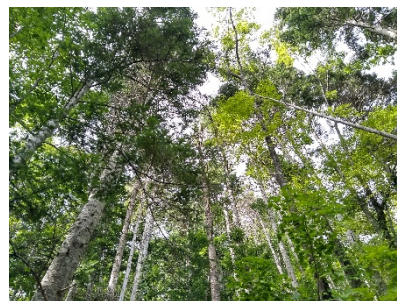


保全された天然林
(藻岩原始林)

○天然林へ移行段階の森林

針葉樹人工林の森林が、「保全された天然林」に向けて移行している途中の森林。公益的機能が発揮されている森林。

- ・本方針では、間伐を実施したり、風倒などで自然発生的にギャップ(林内の空間的隙間)が生じる等により実生の広葉樹等が生えている状態(広葉樹を植栽した履歴がある場合も含む)の森林は、この扱いとします。



広葉樹が生育しつつあるトドマツ林
(南沢都市環境林)

○健全な人工林

植栽により成立した森林で、間伐や、主伐・再造林などの森林整備が適切に行われ、多面的機能(木材生産機能と公益的機能)が発揮されている森林。ゼロカーボンに大きく貢献する森林。



間伐されたカラマツ林
(白旗山都市環境林)

⁴⁴ 【地掻き】苗木の生育を妨げる腐葉土層や、笹地などを重機などで掻き起こす作業

2 林業の担い手とスマート林業に関する将来像

○小規模な森林整備を得意とする事業者や大規模経営の事業者など、多様な事業者が札幌近郊の森林整備や林業を担っています。

- ・森林ごとに、効率的な施業や環境に負荷をかけない施業等、異なる森林整備が求められることから、多様な事業者が活躍していることが必要です。
- ・札幌市単独では林業が成り立たないので、さっぽろ連携中枢都市圏⁴⁵等の広域で担い手を確保していく視点が必要です。

○少ない労働人口でも森林整備等が維持されています。

- ・人口減少社会において、林業界は担い手確保の面で非常に苦しい状況になることを前提に、そのときになっても森林整備等が継続されることを将来像に掲げ、今のうちから施策に取り組んでいく必要があります。

3 木材利用に関する将来像

○道産木材の利用が進み、北海道内の森林資源の循環や森林整備、二酸化炭素の固定が進んでいます。

○道産木材を利用した施設の利用や、製品の購入等を通じて、市民の森林・林業に関する知識や理解が深まっています。

- ・国産材の自給率を上げるために、国産材の利用推進は重要です。一方で札幌市は北海道における木材の一大消費地であることから、北海道の林業振興や森林資源の循環、ゼロカーボンのため、国産材の中でも道産木材の利用を推進することとします。

4 市民や企業との森づくり活動に関する将来像

○森林に親しむ市民が増えるとともに、森林ボランティア活動等の多様な森づくり活動が行われています。

- ・札幌市は、これまで林業になじみがない都市であったことから、自然環境を保全し、また森林整備や林業を進めていくためには、市民一人ひとりが自然環境について親しみと興味を持ち、理解を深め守り育み生かすことが重要です。

⁴⁵【さっぽろ連携中枢都市圏】札幌市と近隣 11 市町村(小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町)によって形成され、それぞれの「まち」の特性を活かし、密接な連携と役割分担のもと、暮らしや経済に役立つさまざまな取組を行う。

5 自然歩道等に関する将来像

○市民が自分の登山レベルや目的にあった自然歩道等を選び、利用することができます。

○限られた財源の中でも、適切に維持管理されています。

- ・森林の中にある自然歩道等は、森林の重要性等に関する普及啓発を行える重要な施設です。また、市民のウェルネスの向上にも寄与できる施設でもあります。施設を効果的に活用していくため、より多くの市民が自然歩道等を利用できるよう、取り組んでいきます。
- ・限られた財源の中、今後も自然歩道等を維持管理し続けるためには、選択と集中の観点で、施設自体の見直しや維持管理の見直しなどを進める必要があります。